

土田 充義



表彰理由：

土田充義氏は故渡辺保忠教授門下生として1965年に大学院修士課程を修了後教育の道に入り、2003年に鹿児島大学教授として退官するまで、38年間にわたって一貫して学生の指導、また地域文化の向上に貢献されてきた。その間、九州における文化財保護活動に従事し、その功績により2003年に鹿児島県文化財功労者の表彰を受けている。また鹿児島大学留学生センター長として国際交流にも関わる中で、中国湖南大学との共同研究の成果として『中国湖南省の漢族と少数民族の民家』（2003年、中央公論美術出版）を共著出版された。

大学退官後は文化財保存工学研究室を設立し、取り壊される予定であった鹿児島カトリック・ザビエル記念聖堂の移設復元活動などに取り組まれている。

このように九州全域での文化財保護活動、ひたむきな教育、研究、指導によって多くの人々から人望を得、また親交を築かれてきていることは稲門建築会にとってたいへん意義あることである。

◎略歴：

1937年 満州国吉林省吉林市生まれ

1963年 早稲田大学第二理工学部建築学科卒業

1965年 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了

同 九州大学工学部助手

1971年 九州産業大学工学部助教授

1972年 九州大学工学部講師

1977年 九州大学工学部助教授

1987年 鹿児島大学工学部教授

2003年 鹿児島大学名誉教授

同 鹿児島県文化財功労者、(有)文化財保存工学研究室設立

～現在 稲門建築会九州副支部長



上左：建て替え工事が始まる前の「鹿児島カトリック・ザビエル教会」

上右：1998年10月「朝日新聞」に紹介された記事。当初取り壊される予定だったが、惜しむ声に押されて移設復元へ。だが引取先の事情で振り出しへ。現在、福岡県宗像市に部材が運ばれ、復元をめざした活動が続けられている。



「中国湖南省の漢族と少数民族の民家」

土田充義・堀慎初 編

中央公論美術出版
B5版、本文532頁、定価38,000円＋税

内容

- 第1章 日中共同研究の意義
- 第2章 中国の民家研究
- 第3章 漢族の居住空間と集住形態
- 第4章 トン族民家の居住空間と構造
- 第5章 苗族民家の内部空間構成
- 第6章 土家族民家の骨組と平面拡張
- 第7章 瑶族民家の配置計画と平面形態
- 第8章 新しい視点を求めて

奄美の高倉（右）

1883年、奄美大島に創建され、1959年鹿児島県立博物館へ寄贈。2001年に不慮の火災。その後、鹿児島大学構内農学部門近くに土田教授を中心に建築学科有志によって再建された。

